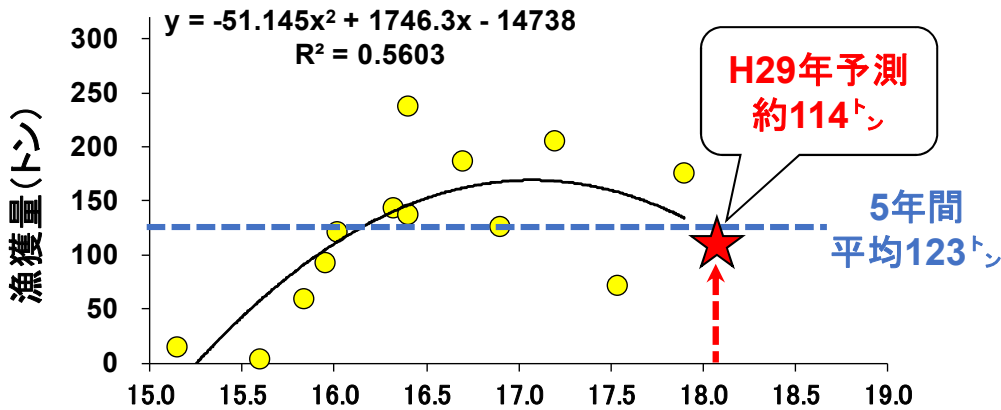


ソデイカ(赤いか)の漁況予測

平成29年8月4日発行
発行元:栽培漁業センター

今漁期は「**平年よりやや少なくなる**」見込み
(過去5年間平均:123ト、今漁況予測:約114ト)(8月4日予測)



8月下旬の長尾鼻地先の水深185m地点における100m層の水温(°C)

- これまで、8月下旬の長尾鼻地先の水深185m地点における水深100m層の水温と赤いか漁獲量との相関関係から予測。
- **7月20日**の観測では、水温が既に**18.1°C**あり(過去5年間の8月の平均水温16.9°C)、H29年の予測漁獲量は**約114ト**。
- 8月の水温がさらに上がれば、予測漁獲量は下がる可能性がある。(100m層水温は、8月に上がる時と下がる時があり、予測が難しい。参考までに、これまでの水温変化はほぼ±1°C以内)
- **過去に18°C以上の時の漁獲データがないため、予測精度はまだ低く、予測が大きく変わる可能性がある。**

これまで、益明け頃に実施していた漁期前試験操業や8月下旬の水温を元に検討し、情報提供していましたが、漁期開始が前倒しの可能性もあるため、現時点(8月4日現在)までに試験操業、情報収集・分析を実施して結果を提供するものです。
※ 赤いかの来遊に関する情報をお持ちの方は栽培漁業センターまでお知らせください。
(電話0858-34-3321 野々村)

ソデイカ(赤いか)の漁期前試験操業と各地の水揚げ状況

(1) 漁期前試験操業(8/4栽培漁業センター2隻用船)

沖側船1隻は36樽使用して2本漁獲(3.1、6.1kg※日本海箱3入サイズ、赤いか箱中～小サイズ)、灘側船1隻は約35樽使用して1本漁獲(1.9kg、※日本海箱3入サイズ)(鳥取沖ライン134° 09'の水深135～230mを調査し、上記3本は水深179～201mで漁獲。水深200mより沖はさか潮、灘はみ潮になっており、丁度その潮目のやや灘よりで漁獲された。調査は約4時間)

■ 漁獲情報(8/4現在)

(2) 賀露地方卸売市場 水揚げ情報

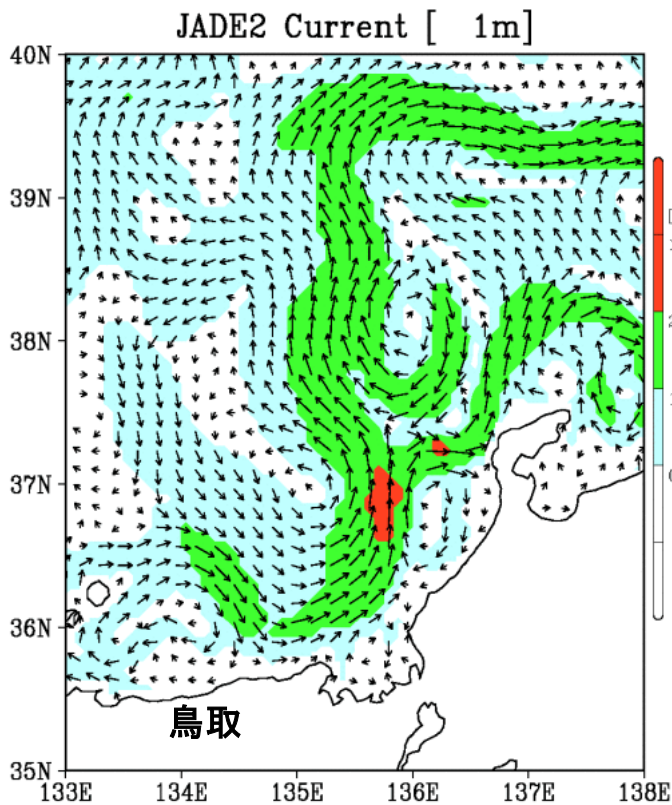
7/31～8/3 水揚げなし ※今漁期はまだ無し

(3) 兵庫県但馬水産技術センター

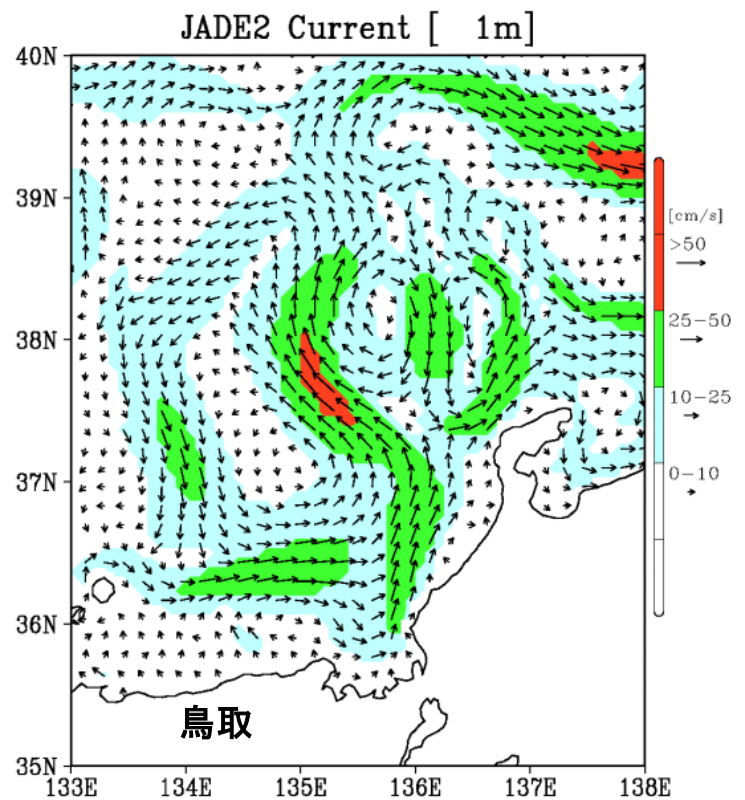
7/22～7/28 水揚げなし ※今漁期はまだ無し

【参考】海況予測(表層の流れ)8/2時点予測

■8月4日



■8月17日



・お盆明けは、海況が大きく変わる可能性があります。
※図 引用元 日本海区水産研究所HP JADE2「日本海海況予測図(拡張版)」

その他参考情報(県内外)

■県内目撃&漁獲情報

- ・7月下旬(7/26、7/29、7/31頃)に白いか漁の際、小型の赤いか(全長約20~50cm)を鳥取沖で3本釣獲(ほか1本ばらし)(県漁協賀露支所漁業者からの8/2聞き取り)
- ・8月2日に小型の赤いか(全長約20~30cm)が夏泊小型定置網に2本入網

■兵庫県但馬水産技術センターによる長期漁況予報

- ・今漁期(9~11月)は、過去5年平均と比べて「**やや少なめ~かなり少なめ**」となる見通し
 - ・冷水塊の張り出しは「**かなり離岸**」、対馬暖流域の50m深水温は「**やや高め**」で推移し、漁場形成は**平年より沖合にまで広がる**見込み
- ※兵庫県但馬水産技術センターHP「平成29年度日本海ソデイカ(あかいか)長期漁況予報」より
http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/suisan/siryou/T_rhombus%20forecast%202017-1.pdf

■沖縄県水産海洋技術センターによる漁獲情報

- ・今漁期(H28年11月~H29年6月)は、過去5年平均よりも「**低く**」推移
- ※沖縄県水産海洋技術センターHP「漁海況情報」
<http://www.pref.okinawa.jp/fish/jyouhou/jyouhou1706.pdf>

【追記】赤いかの発生海域は、南の熱帯・亜熱帯海域であり、沖縄県の漁獲量は日本一位であることから漁況の参考とするものです。今漁期の日本海への資源の来遊が懸念されます。

※本資料には、兵庫県但馬水産技術センターの長期漁況予報、沖縄県水産海洋技術センターの漁獲情報、日本海区水産研究所・九州大学応用力学研究所のJADE2を利用しました。お礼申し上げます。